

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：16201

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12582

研究課題名（和文）ジェントリフィケーションの影響に注目した移民地区における選挙地理学的研究

研究課題名（英文）Electoral geographies of gentrification in urban ethnic neighbourhoods

研究代表者

高橋 昂輝（TAKAHASHI, Koki）

香川大学・経済学部・准教授

研究者番号：40806345

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、カナダ・トロント市のポルトガル系地区を対象とし、市議会議員選挙に焦点を当てることにより、ジェントリフィケーションが移民地区に与える影響を明らかにすることであった。2020年春以降、パンデミックの発生により、研究計画の変更を余儀なくされたが、最終的には、世界トップジャーナルの一つである "Environment and Planning C: Politics Space" に、本研究の成果を発表することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国勢調査データの地図化、現地調査による聞き取り・資料収集などの手法により、移民地区の変容過程とエスニックコミュニティへの影響に選挙政治の側面からアプローチした。ジェントリフィケーションは現代都市社会地理学の鍵概念であり、20世紀末以降、多くの研究が発表されてきた。また、移民地区を対象とした研究、および選挙地理学研究も認められる。しかし、ジェントリフィケーション、移民地区、選挙地理学をそれぞれ結びつけた研究は、管見の限り、認められない。本研究は、社会地理学、政治地理学、都市研究、北米地域研究などの分野に新たな視角を提供し、世界のアカデミアに貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：This research project introduced the lens of electoral politics to improve understanding of political dynamics in an ethnic neighbourhood undergoing gentrification in the City of Toronto. While the COVID-19 pandemic affected this project plan, an achievement, or an article, based on the project was successfully published in Environment and Planning C: Politics Space, one of prestigious international journals in Geography, Planning, and adjacent fields.

研究分野：社会地理学

キーワード：選挙地理学 移民地区 ジェントリフィケーション 近隣変容 エスニシティ 場所アイデンティティ  
トロント市 カナダ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2016年のセンサスによれば、トロント市の総人口はカナダ国内で最多の約270万を数え、そのうち約50%を国外出生者(移民)が占めた。この割合は、ニューヨーク市、シカゴ市などのそれを凌ぎ、北米の大都市で最も高い。また、トロント市には、200以上のエスニック集団の構成員が居住するとされる。すなわち、トロント市は北米を代表する多民族都市であり、都市と移民を論じるにあたり、格好の調査対象地域である。本研究では、市内において空間的な集積が最も顕著なエスニック集団の1つとされてきた、ポルトガル系コミュニティを取り上げる(cf. Breton et al. 1990)。1960年代末以降、トロント市では、現在の第18区(Ward 18)に概ね相当する地域にポルトガル系住民が集中的に居住してきた。その結果、この地域では、ポルトガル系有権者によるポルトガル系候補者への投票行動が認められてきた。こうした同胞票(ethnic vote)の確保を背景として、この地区では1980年代からポルトガル系の市議会議員が連続して選出されてきた。本研究の開始時点においても、第18区の現職議員は、ポルトガル系の移民一世であった。

1987年の選挙を事例に、トロント市において、イタリア系、ユダヤ系などによる同胞候補者への投票パターン(ethnic voting patterns)を検討したLanda et al. (1995)は、立候補者のエスニシティが同胞有権者の投票行動に重大な影響を与えていることを指摘した。Landa et al. による研究は、トロント市の選挙においてエスニシティが重要な要素であることを明らかにした。しかし、この研究は定時的な分析にとどまり、ジェントリフィケーションをはじめ、近年におけるダイナミックな都市変容を捉えてはいない。

従来、北米都市では、移民エスニック集団などの低所得者がインナーシティ(都市中心部)に居住する一方、現地生まれの中・高所得者は郊外に居住すると考えられてきた(Park and Burgess 1925)。しかし、主に1970年代以降、中・高所得者は郊外から中心部に都心回帰しており、その結果、インナーシティでは、ジェントリフィケーションが発生している(Ley 1996)。ジェントリフィケーションに関しては、衰退した地域を活性化させるとともに、市政府に税収の増加をもたらすものとして肯定的に評価する見方がある一方、地価や賃料の上昇を引き起こし、従前の住民の域外への閉め出し(displacement)を生じさせるものとして否定的な見解も確認される(Smith 1996)。トロント市のポルトガル系地区においても、1990年代以降、ジェントリフィケーションが進行している(Walks and Maaranen 2008)。Chum (2015)は、ポルトガル系地区において、ジェントリフィケーションに伴う、従前の住民への立ち退きの実態を明らかにした。こうした背景にもとづき、近年、伝統的な移民地区(第18選挙区)におけるポルトガル系住民の割合は減少している(表1)(Takahashi 2015; Takahashi 2017)。

本研究課題の核心をなす「問い」は、北米都市における近年の空間変容が、社会的マイノリティであるエスニック集団にいかなる影響を及ぼしているかである。この問いを明らかにするため、本研究では選挙に焦点を当てる。選挙は、市民が投票を通じて政治代表を選び出す民主的手続きであるが、エスニック集団の構成員にとっては、エスニックコミュニティの代表をホスト(カナダ)社会に送り出す機会にもなる。言語能力や学歴などに劣るエスニック集団の構成員は、同胞の議員を介して、ホスト社会への政治的アクセスを獲得する。しかし、小選挙区制が採られる都市において、それは特定のエスニック集団による一定の空間への集住を前提条件としている。翻せば、ジェントリフィケーションにより居住形態が変化した時、エスニック集団にとって、それは単なる空間構造の変化にとどまらず、同胞議員の喪失とそれによるホスト社会への政治的アクセスの低下にもつながる。本研究は、北米の都市のみならず、今後多民族化が想定される日本の都市における、多文化共生社会の構築にも貢献し得るものと考えられる。

表1 第18選挙区における総人口に占めるポルトガル系人口の変化

	1981	1996		2011	
	(母語)	(母語)	(民族的出自)	(母語)	(民族的出自)
ポルトガル系(人)	16,860	15,890	18,520	9,015	11,320
総人口(人)	47,206	48,675	48,675	44,595	44,415
ポルトガル系割合	35.72%	32.65%	38.05%	20.22%	25.49%

(Statistics Canada (1981, 1996, 2011) により作成)

2. 研究の目的

本研究の目的は、トロント市の第18区における選挙に焦点を当て、近年における都市変容の様態とそれによる移民エスニック集団への影響を明らかにすることであった。本研究で扱う「移

民」と「ジェントリフィケーション」は、近年の都市研究における中心的テーマである。ジェントリフィケーションは、インナーシティで生じる現象であり、それは多くの場合、移民地区を内包している。しかし、Lees et al. (2008)によれば、ジェントリフィケーションによるエスニック集団への影響を論じた研究は蓄積に乏しい。本研究は、ジェントリフィケーション研究において蓄積に乏しいエスニック集団への影響を論じるとともに、選挙という新たな視角からその都市変容過程を検討する点において、学術的独自性と創造性をもった研究として位置づけられる。

### 3. 研究の方法

本研究は、カナダ国勢調査のデータをもとにセンサストラクト単位での人口分布の地図化、現地調査による市議会議員秘書、ポルトガル系コミュニティのリーダー、Business Improvement Areaの幹部などへの聞き取り、Toronto Archivesなどでの資料収集をはじめとした方法により、移民地区の変容過程とエスニックコミュニティへの影響に選挙政治の側面からアプローチした。

### 4. 研究成果

本研究は、近年におけるジェントリフィケーションの進行が、移民地区に与える影響を選挙政治という新たな視角から分析した。場所、および場所アイデンティティの複数性を認識した、ポルトガル系現職議員の選挙戦略を明らかにするとともに、ジェントリフィケーションの進行により、変容期にある移民地区の政治的ダイナミクスを描き出した。

2020年春以降、COVID-19の世界的流行により、調査計画の変更を余儀なくされたが、それまでに収集した資料をもとに、それ以降の期間、論文の執筆に努めた。2020年度末には、査読付き国際学術雑誌に論文を投稿した。2021年9月には、日本学術振興会・海外特別研究員として、カナダのヴィクトリア大学に派遣された。パンデミック下にあり、フィールドワークの実施は困難であったが、ヴィクトリア大学の受入研究者に適宜アドバイスをもらいながら、同学術雑誌の編集委員・査読者からのコメントに対応した。

2021年12月には、査読付き・国際学術雑誌のEnvironment and Planning C: Politics Spaceに、単著論文“Electoral politics, gentrification, and strategic use of contested place identities in Toronto's Portuguese neighbourhood”が受理され、翌年2月にはオンラインで先行公開された。本研究課題「ジェントリフィケーションの影響に注目した移民地区における選挙地理学的研究」の成果を、世界トップジャーナルに公表することができた。

### 【文献】

- Breton, R., Isajiw, W. W., Kalbach, W. E., and Reitz, J. 1990. *Ethnic Identity and Equality: Varieties of Experience in a Canadian City*. University of Toronto Press.
- Chum, A. 2015. The impact of gentrification on residential evictions. *Urban Geography* 36 (7), 1083-1098.
- Landa, J., Copeland, M., and Grofman, B. 1995. Ethnic voting patterns: a case study of Metropolitan Toronto. *Political Geography* 14(5), 435-449.
- Lees, L., Slater, T., and Wyly, E. 2008. *Gentrification*. Routledge.
- Ley, D. 1996. *The New Middle class and the Remaking of the Central City*. Oxford University Press.
- Park, R. E. and Burgess, E. W. 1925. *The City*. University of Chicago Press.
- Smith, N. 1996. *The New Urban Frontier: Gentrification and the Revanchist City*. Routledge.
- Takahashi, K. 2015. Little Portugal and the changing spatial structure of the Portuguese community in Toronto. *Geographical Review of Japan Series B*. 88(1), 1-22
- Takahashi, K. 2017. Toronto's Little Portugal: gentrification and social relations among local entrepreneurs. *Urban Geography* 38(4), 578-605.
- Walks, A. and Maananen, R. 2008. Neighbourhood gentrification and upgrading in Montreal, Toronto and Vancouver. *Centre for Urban and Community Studies Research Bulletin* 43, 1-9.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 高橋昂輝	4. 巻 92(4)
2. 論文標題 山口県周防大島町における観光の特徴と架橋を介した交通流動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 香川大学経済論叢	6. 最初と最後の頁 259-297
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高橋昂輝	4. 巻 97
2. 論文標題 移民の島の観光戦略 瀬戸内のハワイ・周防大島の創造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本地理学会発表要旨集	6. 最初と最後の頁 363
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14866/ajg.2020s.0_363	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Takahashi Koki	4. 巻 -
2. 論文標題 Electoral politics, gentrification, and strategic use of contested place identities in Toronto 's Portuguese neighbourhood	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Environment and Planning C: Politics and Space	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1177/23996544211072650	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 高橋昂輝	4. 巻 66 (8)
2. 論文標題 災害・パンデミックと架橋島における「移動/観光」：現代周防大島の脆弱性と可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 92-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高橋昂輝
2. 発表標題 移民の島の観光戦略 瀬戸内のハワイ・周防大島の創造
3. 学会等名 公益社団法人日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋昂輝
2. 発表標題 北米都市における選挙とエスニック集団 2018年トロント市議会議員選挙に向けて
3. 学会等名 公益社団法人日本地理学会秋季学術大会（都市地理学研究グループ）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋昂輝
2. 発表標題 塩飽諸島の広島・茂浦における集落点検
3. 学会等名 香川地理学会研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 須山 聡、宮内 久光、助重 雄久、平岡 昭利	4. 発行年 2018年
2. 出版社 海青社	5. 総ページ数 208
3. 書名 離島研究VI	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------